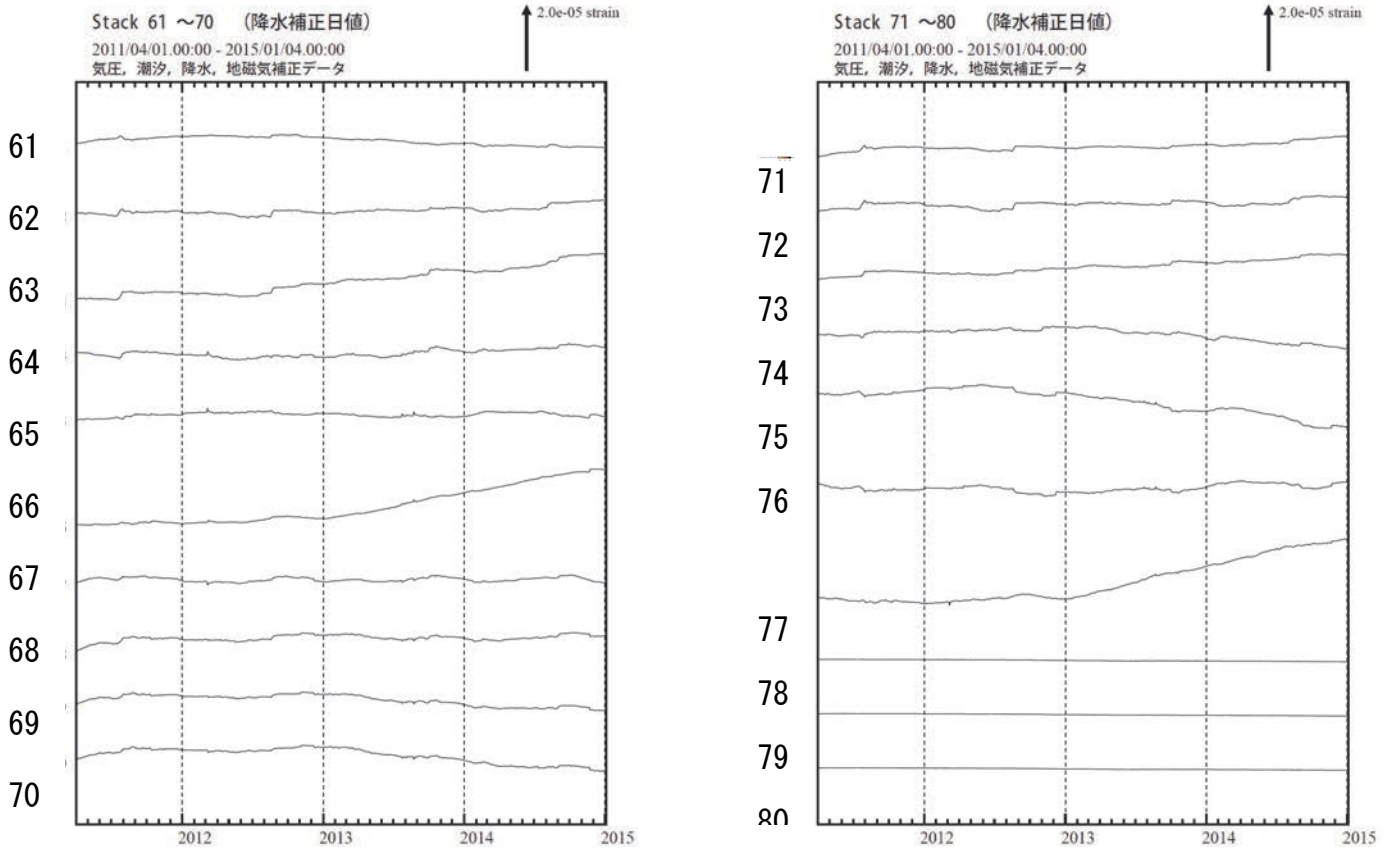


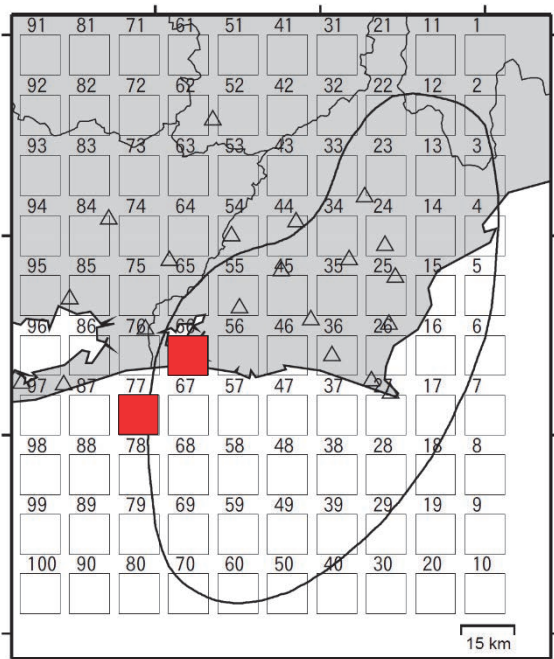
スタッキング*による長期的ゆっくりすべりの検出について

○各グリッドでの時系列変化



日値スタッキング波形。番号は監視グリッド（左下図参照）を示す。

- データ : 補正日値（体積ひずみ計とアナログ式多成分ひずみ計）
- ノイズレベル : 2011年6月～2012年12月の、60日階差（単純な階差）の標準偏差理論値計算 : 0.15° 各々の各グリッドを中心とする、20×20kmの断層



グリッド配置およびすべり量 (Mw)

グリッド No.66 と No.77 に明瞭な変化が見られている。総すべり量は Mw6.4 相当となる。



*スタッキング手法は、ひずみ計のデータを重ね合わせることによって、微小な地殻変動のシグナルを強調させて、検知能力を向上させる解析方法である。

参考文献

宮岡一樹, 横田 崇 (2012): 地殻変動検出のためのスタッキング手法の開発—東海地域のひずみ計データによるプレート境界すべり早期検知への適用—, 2012, 地震 2,65,205-218.

図7 スタッキングによる長期的ゆっくりすべりの検出

気象庁・気象研究所作成